

第10期（2021年度）事業報告

2021年10月1日～2022年9月30日

事業報告書

1. 事業概要

1.1 はじめに

2012年（平成24年）9月26日に財団を設立、今期で第10期の事業を終えた。10年前に設立をした背景には「失われた20年」といわれる1990年代から低迷してきた日本経済を成長軌道に乗せられないかがあった。また、技術経営学の研究成果を経営人財の育成に生かすことが財団設立の狙いであった。定款には「豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目的とする」と掲げて活動をしてきた。

財団設立から10年を経過し、日本経済は良くなることはなく、今や「失われた30年」となっている。財団が取り組む技術経営人財育成の重要性が増している。

1.2 社会情勢と日本が抱える課題

グローバル時代の終焉

日本人は戦後（昭和20年）から80年近く戦火にまみれることなく、平和を享受し過ごしてきた。コロナ感染、DXと右往左往しているなかの2月末に起きたロシアのウクライナ侵攻は、予測外であった。政治体制や経済運営の違いを超えて今日までに築き上げたグローバル社会の仕組みが機能しなくなった。

国家レベルの集団が、日本のネットワークに対して攻撃してくるといふ、衝撃的な事件がおきた。ネットワークが兵器となる時代を迎えた。インターネットは、外部からの侵入が容易である。国家レベルの集団が日本に対して攻撃してくる時代に突入した。リスクを予測し、対策を講じる。防衛ができての平和の維持である。

グローバル時代の終焉を迎えた今、外国に頼り切っている産業構造上のリスクが大きくなった。沢山ある課題の中から主要なものをあげてみる。

国内に閉じた半導体製造体制の構築をする。

食料自給率の改善に取り組む。

国内に閉じたサプライチェーンの構築を急ぐ。

オープンでなくクローズドな開発体制にして、知的財産の保護に走る。

ネットワーク防衛体制の構築をする。

DX対応で遅れた日本

デジタル革命（DX）は、組織変革や社会変革を起こしながら一步一步、進行している。DXに取り組むと、組織の変革が必要になる。日本が、組織変革をできない理由の一つに日本の雇用制度と組織体制がある。終身雇用制度では、その道のベテランが上司で君臨し

ている。ベテラン社員の多くは、DXのメリットが理解できない。理解したとしても、現状の仕事のやり方を変える決断は、多くの場合できない。DXでは、自分の仕事のスキルが使えなくなり、自己否定ができなければ導入することはできない。DX化を推進し、組織効率を高めるには、組織構成を見直し、不要な仕事を無くしてしまうことだ。改革を先導する人間の仕事がなくなるのが、DXである。

日本の企業競争力の低下

円安については、評価が分かれているが、ここまで円安が進むと、日本が豊かになれるのか疑問である。現状の円安は、日本の通貨の実力を示す指標ともいえる。資源を輸入に頼っている日本、いまや海外のインフレと円安とが絡み合い、輸入価格が大幅に上昇して、販売価格を押し上げている。値上げが始まり、国民の消費生活に影響がはじめた。

日銀が、円安を支配しているといわれるが、日本企業に競争力が無くなってしまったとしたら、金利をあげても円高にはならない。世界から孤立し、追い込まれている日本、この円安で日本は豊かになれるのか疑問である。

1. 3 主要な人財育成事業

第10期の財団活動では、コロナ禍ではあるが感染の対策に配慮をして、対面式に戻して、人財育成事業に取り組んだ。

次の4つの人財育成事業に取り組んだ。

- (1) 西河技術経営塾（実践経営スクール代々木校9期：修了生1名）
- (2) 西河技術経営塾（実践経営スクール沼田校3期：修了生4名）
- (3) 研修事業（敬愛大学への寄付講座5期：受講生43名）
- (4) 地方創生研究会（第4回～第6回）

西河技術経営塾は、代々木校と沼田校とし、同一講座構成とした。沼田校は、修了生のサポートや沼田市の後援も得て、地元で根差した活動となっている。

敬愛大学での寄付講座は、5期目を修了した。「技術経営学」＝「入門経営学」という新たな知見を得ることができた。技術がビジネスの「具現力」である限り、「経営学」を理解する上での糸口に「技術経営学」が役立つことに気づいた。

コロナ禍ではあるが、休止していた地方創生研究会を再開した。

2. 西河技術経営塾

2. 1 西河技術経営塾・実践経営スクール（代々木校、沼田校）の概要

西河技術経営塾・実践経営スクールでは、変革をつくるマーケティングを学び、豊かな社会づくりに取り組むことができる技術経営人財を育成する。

技術経営塾での学びを6項目に整理した。

- (1) 日本型技術経営研究の成果を学ぶ
- (2) お金は企業の血液であることを学ぶ

- (3) 売上を10倍にする西河技術経営学を学ぶ
- (4) 実践的思考、変革的思考を塾生参加型で育成する
- (5) 誠実な経営人財を育成する
- (6) 現職の経営者が学び、学んだことをすぐ経営に生かす

(1) 日本型技術経営研究の成果を学ぶ

米国型経営の中核に株主がいるとすると、日本型経営の中核には従業員がいる。日本の会社は、終身雇用で社員を大事にする。景気が悪いと言っても、正規社員は簡単に首を切らない。日本の学生は学校を卒業すると就職ではなく、親とも相談し、会社選びに取り組み、就社をする。日本の経営者の指導力は、ボトムアップのやる気を引き出すことにある。技術重視の経営は、現場力を引き出すことにあり、技術の分かる経営者によって実現してきた。

(2) お金は企業の血液であることを学ぶ

会計情報が、企業活動を把握する上で重要なパラメータであることを教える。既存の大学院では、特定の領域における専門家が講義する。なかなか経営全般について横串を刺して教えてはいない。会計情報から組織を管理する手法を学ぶ。

(3) 売上を10倍にする西河技術経営学を学ぶ

塾生に売上を10倍にする、経営戦略づくりを指導する。売上を10倍にしようとする、経営学を学ばないとできない。精神論では実現しない。中長期計画を立案し、人財の育成をし、戦略を立案し、計画的に取り組むことを学ぶ。

(4) 実践的思考、変革的思考を塾生参加型で育成する

経営の知識を座学で学び、演習で実践的経営を学ぶ。塾生は、経営幹部として仕事をしていることが前提となる。小人数で取り組む当塾の演習は、実践力を向上させる。

(5) 誠実な技術経営人財を育成する

経営者は、誠実な心を持つ人間でなければならない。財団の「アーネスト」は、「誠実」を意味する。「誠実」でかつ「やる気」と「気力」を持つ必要がある。演習などを通して、繰り返し、嘘をつかない、誠実な経営を心掛けることを指導する、

(6) 講師陣

西河洋一、小平和一朗、山中隆敏、浅野昌宏、土山真由美、小坂哲平

2. 2 西河技術経営塾・実践経営スクール（代々木校 9期）の開塾状況

代々木校の第9期生は、2022年01月26日に開塾し、2022年7月27日に修了した。高橋永一（㈱あかぎチキン 取締役社長）が1名修了した。

修了証授与式は明治神宮フォーレストテラス椎の間で行い、高橋永一に対し修了証と優

良賞を授与した。研究生、小坂哲平の研究報告書を審査し、「特待生」の資格を授与した。

（１）開催日程

本実践経営スクールは、24回開催する。原則、毎週水曜日に開講し、1日の構成は前半の18時～19時30分が座学、後半の19時40分～21時10分が演習に取組む。

演習では、課題研究の発表、ケース研究、ディベートなどを行い、創生力やコミュニケーション力を鍛錬している。

第9期生は2022年1月26日に1名の塾生を迎え開塾をした。また、研究科として山中隆敏理事、小坂哲平評議員が参加した。

（２）第9期の講義実績

（第1講座）2022年01月26日、開講式：開講にあたって（西河塾長）
技術経営とは何か（小平専務理事）

演習：自己紹介と会社案内。

（第2講座）02月02日、企業文化とアイデンティティ（小平）

演習：塾で学びたいこと、現状の問題と課題。

（第3講座）02月09日、ビジネスモデルづくりを学ぶ（小平）

演習：自社のビジネスモデルを報告する。

（第4講座）02月16日、企業財務入門（小平）

演習：自社の技術的強みを報告する。

（第5講座）03月02日、モノづくりとコトづくり（小平）

演習：自社のビジネスモデルを分析する。

（第6講座）03月09日、西河技術経のルーツを学ぶ（西河）

演習：西河塾長の講義を受講して3問以上の質問を考える。

（第7講座）03月23日、コストハーフ戦略（小平）

演習：自社の財務諸表を分析する。

（第8講義）03月30日、新規の市場を創生する（山中理事）

演習：事業計画を報告する

（第9講座）04月06日、サービスビジネス入門（山中）

演習：原価低減、経費削減策を報告する。

（第10講座）04月13日、収益モデルに基づいた中長期戦略（小平）

演習：サービスイノベーション戦略を報告する。

（第11講座）04月20日、グローバル経営戦略（山中）

演習：中長期戦略を報告する。

（第12講座）04月27日、中小企業のブランド構築戦略（小平）

演習：自社のブランド戦略を報告する。

（第13講座）05月11日、ICTを利用したビジネスモデル（山中）

演習：新規の事業戦略を検討する。

（第14講座）05月18日、エンジニアリング・ブランドづくり（小平）

- 演習：ICT戦略（即実行、次年度、中長期）
（第15講座）05月25日、中小企業のDX戦略（土山）
演習：自社または商品の広告を作成する。
- （第16講座）06月01日、海外を知る（浅野）
演習：エンジニアリング・ブランド戦略を立案する。
- （第17講座）06月08日、商品開発プロジェクトマネジメント（小平）
演習：グローバル経営戦略を報告する。
- （第18講座）07月06日、中小企業のERP戦略（土山）
演習：プログラミングに挑戦する。
- （第19講座）06月15日、マネジメントとリーダーシップの違い（小平）
演習：ロボットの活用、自動化などの戦略を報告する。
- （第20講座）06月22日、報告書と論文の書き方（小平）
演習：研究報告書のテーマを決定する。
- （第21講座）06月29日、人財育成と設備投資（小平）
演習：研究報告書の概要レビュー。
- （第22講座）07月13日、会社を取り巻く法令と規則（小平）
演習：研究報告書の概要レビュー
- （第23講座）07月20日、課題発表会：審査（受講者）
演習：審査会：課題発表会
- （第24講座）07月27日、修了式（受講者） 明治神宮内

（3）受講料（税込）

受講料は、1律 15万円＋税とした。

2.3 西河技術経営塾・実践経営スクール（沼田校 3期）の開塾状況

沼田校の第3期生は、2022年03月26日に開塾し、2022年9月17日に修了した。沼田校の審査会と修了式を沼田市役所内会議室で行った。

鶴淵保弘（原澤林業）、大山英明（小坂建設）、中島裕也（ウイング）、中村茉由（北毛茶屋）の4名が修了した。中島裕也が優良賞を受賞した。

アシスタント講師として、3期も引き続き小坂哲平（5期生）が就任した。小坂は講義に向けて「予習・復習」の時間を設け、受講生を指導した。予習と復習の時間では、教科書（西河技術経営学入門）の読み合わせはもちろん、宿題である次回講義の演習課題（ビジネスモデル、経営理念、SWOT分析、商品開発戦略、エンジニアリング・ブランド、中長期目標など）について受講生と活発に議論した。

（1）開催日程

- （第1講座）2022年03月26日、開講式：開講にあたって（西河塾長）
技術経営とは何か（小平専務理事）
演習：自己紹介と会社案内。

- (第2講座) 04月09日、企業文化とアイデンティティ (小平)
演習：塾で学びたいこと、現状の問題と課題。
- (第3講座) 04月09日、ビジネスモデルづくりを学ぶ (小平)
演習：自社のビジネスモデルを報告する。
- (第4講座) 04月23日、企業財務入門 (小平)
演習：自社の技術的強みを報告する。
- (第5講座) 04月23日、モノづくりとコトづくり (小平)
演習：自社のビジネスモデルを分析する。
- (第6講座) 05月07日、西河技術経のルーツを学ぶ (西河)
演習：西河塾長の講義を受講して3問以上の質問を考える。
- (第7講座) 05月07日、コストハーフ戦略 (小平)
演習：自社の財務諸表を分析する。
- (第8講義) 05月21日、新規の市場を創生する (山中理事)
演習：事業計画を報告する
- (第9講座) 05月21日、サービスビジネス入門 (山中)
演習：原価低減、経費削減策を報告する。
- (第10講座) 06月04日、収益モデルに基づいた中長期戦略 (小平)
演習：サービスイノベーション戦略を報告する。
- (第11講座) 06月04日、グローバル経営戦略 (山中)
演習：中長期戦略を報告する。
- (第12講座) 06月18日、中小企業のブランド構築戦略 (小平)
演習：自社のブランド戦略を報告する
- (第13講座) 06月18日、ICTを利用したビジネスモデル (山中)
演習：新規の事業戦略を検討する。
- (第14講座) 07月02日、エンジニアリング・ブランドづくり (小平)
演習：ICT戦略 (即実行、次年度、中長期)
- (第15講座) 07月02日、中小企業のDX戦略 (土山)
演習：自社または商品の広告を作成する。
- (第16講座) 07月16日、海外を知る (浅野)
演習：エンジニアリング・ブランド戦略を立案する。
- (第17講座) 07月16日、商品開発プロジェクトマネジメント (小平)
演習：グローバル経営戦略を報告する。
- (第18講座) 07月30日、中小企業のERP戦略 (土山)
演習：プログラミングに挑戦する。
- (第19講座) 07月30日、マネジメントとリーダーシップの違い (小平)
演習：ロボットの活用、自動化などの戦略を報告する。
- (第20講座) 08月20日、報告書と論文の書き方 (小平)
演習：研究報告書のテーマを決定する。
- (第21講座) 08月20日、人財育成と設備投資 (小平)

演習： 研究報告書の概要レビュー。

(第 22 講座) 09 月 03 日、会社を取り巻く法令と規則 (小平)

演習： 研究報告書の概要レビュー。

(第 23 講座) 09 月 03 日、課題発表会：審査 (受講者)

演習： 審査会：課題発表会

(第 24 講座) 09 月 17 日、修了式 (受講者)

2.4 西河技術経営塾ネット入門講座の開設 (公益活動) の取り組み

西河技術経営塾の更なる発展を目指し、YouTube を使った「ミニ講座」の動画配信を行った。財団活動の公開性を高めることに目的を置く。

西河技術経営塾で取り組む経営者育成の周知、塾修了生の学び直しの支援等ができるものと考えている。

公開済み講座

(第 1 回配信) 2022 年 06 月 29 日、講師 小平和一朗

エンジニアリング・ブランドの構築

(第 2 回配信) 2022 年 07 月 15 日、講師 小平和一朗

経営は未来学 - 今なら聞ける中長期計画の立案 -

開発済み講座

(第 3 回配信) 2022 年 10 月 04 日に配信予定、講師 小平和一朗

ビジネスモデル - 儲けの仕組みを組立てる -

3. 敬愛大学での寄付講座 (5 期目)

敬愛大学 (三幣利夫学長) における『経営シミュレーション - 西河技術経営学入門 -』と題する寄付講座は、4 期目になる。敬愛大学経済学部経営学科の学生に、日本のモノづくり企業にとって重要な「技術経営」を教える。経営学が教えられて技術経営学が学部で教えられないはずはないとの疑問からの取り組みである。学生に経営を教えることは難しいが、分かり易く経営を説明する研究につながっている。

2022 年 4 月から 7 月まで、敬愛大学経済学部経営学科にて『経営シミュレーション (西河技術経営学入門)』と題する寄付講座を取り組んだ。5 期目は国際学部の『入門経済学』の講義が相乗りする形で火曜日の 3 限目に対面形式で行った。国際学部 46 名、経済学部 26 名で合計 72 名の学生が試験を受けた。国際学部は必修である。全員が合格した。

敬愛大学経済学部経営学科での寄付講座の概要を以下に示す。

- (1) 設置年度 令和 4 年度 (2022 年) 3 月
- (2) 講座担当責任 アーネスト育成財団 専務理事 小平 和一朗
- (3) 寄付者 一般財団法人アーネスト育成財団
- (4) 寄付金 百万円 (年間)
- (5) 開講科目 経営シミュレーション (西河技術経営学入門)
- (6) 講座構成 『西河「技術経営学」入門』の章単位で講座を進める。

(7) 期待する成果 日本企業にとって重要な「技術経営」という新しい概念の学習で、グローバルな市場でも通用する競争力の強化策を学べる。

(8) 財団の狙い 「西河技術経営学」の再評価と学術研究の機会を得る。受講生に技術経営の「技術」をいかに分かりやすく伝えるかの実践と教育実習の機会を得る。

4. 技術経営人財育成セミナー

2022年8月25日 技術経営人財育成セミナー（第28回）を開催した。

テーマは『データサイエンス教育と起業』、講師は白川清美（立正大学データサイエンス学部 教授 博士（工学））である。

セミナーへの参加申し込みは、財団居室への参加者を10名限定とし、Zoomでの希望者も併せて募集をした。実績は20名が出席した。

5. 調査研究

5. 1 「技術経営学」研究会

アーネスト育成財団は、設立以来、経営人財の育成に西河技術経営塾を開催し取り組んできた。前期に発行した『西河技術経営学入門』は、その塾での成果を整理したものである。この本に従って少しずつ発展させながら、開発工学会（佐藤一弘会長）の「技術経営学」研究会（主査：小平専務理事）を協賛支援した。

開催日程

（第4回）2021年10月25日、報告者 小平和一朗

ビジネスモデルづくりを学ぶ - 技術経営の技術の存在を明らかにする -

（第5回）2021年12月17日、報告者 杉本晴重

商品開発の取り組み - 商品企画と開発のポイント -

（第6回）2022年2月28日、報告者 杉本晴重

モノづくりを学ぶ - モノづくりの理解。製造原価の把握 -

（第7回）2022年5月30日、報告者 西河洋一

西河技術経営学のルーツを探る

- 著書『パワービルダーの家づくりビジネス戦略』に見る技術経営戦略 -

5. 2 地方創生研究会

日本は、人口減少、高齢化という社会現象が起きていて、その影響をまともに受けているのが地方である。色々な要因が絡んで起きていると思われるが、原因分析の前に、人が集まる魅力ある地方の街づくりを研究してみる必要があると考えている。

以上の問題意識で、吉池富士夫（現芝浦工業大学理事）を迎え、2019年10月24日に第1回の地方創生研究会（座長吉池富士夫）を開催した。コロナ禍の影響を受け、第4回研究会（2021年1月31日）を最後に中断していたが、本年度（2022年4月11日）に再開した。

開催日程

(第5回) 2022年4月11日、報告者 六本木勇治

おぜのさと倶楽部 - みんなの未来を共に創る風土を目指して -

(第6回) 2022年7月22日、報告者 石井唯之

千葉県南房総エリアでの地方創生事業の取り組み

6. 広報活動

6. 1 ホームページの運用

ドメイン名”eufd.org”を取得し、ホームページを運用している。ホームページを月2回以上更新してきた。

表1 ホームページアクセス数集計(2021年10月01日～2022年9月30日)

No	ページ	合計	日本以外のアクセス国と回数
1	概要	1,686	米:203、中:15、英:1
2	西河技術経営塾	1,830	米:22、中:3、韓:1、尼:1
3	セミナー	3,403	米:156、中:65、英:12、韓:5、豪:5、台:4、加:3、ベ:2、西:1、マ:1
4	研究会	849	米:26、中:1、台:4、豪:1、
5	アクセス	149	米:1、中:1
	計	7,917	

(注1) ホームページ (<http://www.eufd.org>) は、HOME、概要、西河経営塾、セミナー、研究会、アクセスで構成されている。

(注2) 尼:インドネシア、豪:オーストラリア、加:カナダ、ベ:ベトナム、西:スペイン、マ:マレーシア

6. 2 活動報告書(印刷物)の発行

活動報告「誠実を伝える情報紙 Earnest」を本年度は、4回発行した。豊かで明るい持続的な成長をする日本づくりに寄与することを目指す当財団の活動を広報することができた。具体的には、人財育成と活用に関する研究委員会の活動報告、西河技術経営塾の取り組み報告、セミナー概要の報告などを行って、情報紙としての役割を果たしてきた。

以下、各号の概要を報告する。

- ・ Vol.10 No.1(S036) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2021.10.21)

地方を元気にする経営者の育成(西河技術経営塾入門講座沼田校)

中小企業経営者のための技術経営学(西河技術経営塾(代々木校9期、沼田校3期))

技術経営学を入門経営学で使用できるよう開設(「技術経営学」研究会(第4回))

- ・ Vol.10 No.2(S037) 誠実を伝える情報紙 Earnest (2022.02.28)

経営者の育成に取り組む（西河技術経営塾（代々木校））
丸亀リノベーション&地方創生論（財団・地方創生研究会）
変革時代の財団運営（第10期 財団評議員会 事業計画）

- ・ Vol.10 No.3(S038) 誠実を伝える情報紙 Earnest（2022.05.10）
技術経営学を学び地方を豊にする（西河技術経営塾（沼田校））
山育の聖地を群馬県北部から発信（財団・地方創生研究会）
技術経営は経済学に実学的知見（西河技術経営学入門（第5期）講座）
- ・ Vol.10 No.4(S039) 誠実を伝える情報紙 Earnest（2022.09.30）
技術経営の知識を社員に伝え（西河技術経営塾（沼田校3期、代々木校9期））
南房総エリアでの地方創生事業の取り組み
データサイエンスという分野ができて統計と情報が融合

6. 3 賀詞交歓会（令和4年、令和5年）

令和4年開催の賀詞交歓会は、コロナ感染が懸念されるため中止とした。

令和5年1月18日（水）に帝国ホテルにて開催することで準備を進めている。西河技術経営塾塾生OBの成果報告と表彰イベントを行うことで募集中である。

6. 4 広告宣伝

芝浦工業大学校友会の賛助広告や日本開発工学会「開発工学」に広告を掲載した。

6. 5 西河技術経営塾OBとの交流

ビジネスの現状や塾での成果の確認および今後財団が取り組むべき課題を把握するため、小平和一郎専務理事と浅野昌宏理事が塾OBを訪問し、インタビューをした。

得られた貴重な情報は、今後の財団活動に生かしていく。

- （1）2022年6月23日（木）小泉賢貴朝焼け代表取締役（代々木校2期）を訪問。
- （2）2022年6月27日（月）稲垣通泰ウイングスインターナショナル協同組合事務局長（代々木校7期）を訪問。
- （3）2022年7月13日（水）小坂哲平小坂建設社長（代々木校5期）と財団事務所。
- （4）2022年7月28日（木）小貫智太郎群馬セラミック社長（代々木校5期）を訪問。
- （5）2022年7月28日（木）為野大地サンエス警備社長（代々木8期）を訪問。
- （6）2022年7月29日（金）六本木勇治尾瀬パークホテル企画・営業・広報部長（沼田校2期）
- （7）2022年7月29日（金）村上俊英青龍山吉祥寺副住職（沼田校2期）を訪問。
- （8）2022年7月29日（金）前田昌克㈱オリエント取締役（沼田校2期）を訪問。
- （9）2022年7月29日（金）横坂優輔（有）ケンジョウ社長（沼田校1期）を訪問。
- （10）2022年7月29日（金）土谷裕樹ヒロ工業㈱代表取締役（沼田校2期）を訪問。

7. 役員構成と評議員会、理事会、事務局体制

7. 1 役員

- (1) 理事長 西河 洋一 (株アーネストワン 取締役)
- (2) 専務理事 小平和一朗 (株イー・ブランド 21 代表取締役)
- (3) 理事 浅野 昌宏 (一般社団法人アフリカ協会 副理事長)
山中 隆敏 ((株) メディカルパーフェクト代表取締役社長)
- (4) 監事 廣田 令子 (税理士)
- (5) 顧問 吉久保誠一 (元 T O T O (株) 専務取締役)、平強 (Tazan International CEO)、大橋克巳 (株クラレ社友)、柴田智宏 (J X 金属 (株) 社友)、杉本晴重 (元 (株) 沖データ代表取締役社長)

7. 2 評議員

- 吉久保 信一 (弁護士)
- 前田 光幸 (エネルギー&イノベーション研究所代表)
- 志手 一哉 (芝浦工業大学 教授)
- 渋谷 加津美 ((株) タムラ製作所)
- 小坂 哲平 (小坂建設 (株) 代表取締役)

7. 3 評議員会の開催

第 10 回定時評議員会を 2021 年 12 月 08 日 (水)、フォーレストテラス明治神宮内「椎」の間にて行った。

- 第 1 号議案 第 9 期事業報告<承認>
- 第 2 号議案 第 9 期決算報告書<承認>
- 第 3 号議案 監事の選任<決議>
- 第 4 号議案 第 10 期の役員体制の報告<報告>
- 第 5 号議案 第 10 期事業計画<決議>
- 第 6 号議案 第 10 期収支予算書<決議>
- 第 7 号議案 評議員、理事及び監事の報酬の額<決議>
- 第 8 号議案 議事録署名人の選任<決議>
- 理事会報告 理事長、顧問の選任<報告>

7. 4 理事会の開催

以下の理事会を開催した。

(1) 第 80 回理事会 (2021 年 10 月) 2021 年 10 月 13 日

- 第 1 号議案 2021 年 7 月、8 月、9 月決算報告
- 第 2 号議案 西河技術経営塾 実践経営スクール 9 期生の講座構成と講師体制の見直し

(2) 第81回理事会(2021年11月) 2021年11月10日

第1号議案 評議員会の議案審議

(3) 第82回理事会(2021年12月) 2021年12月08日

第1号議案 顧問の報酬の額

(4) 第83回理事会(2022年04月) 2022年04月13日

第1号議案 2021年10月～2022年3月決算報告

第2号議案 西河技術経営塾ネット入門講座の開設(公益活動)の提案

第3号議案 沼田塾OBとの研修交流の開催第1号議案 日本開発工学会「技術経営学」

第4号議案 賀詞交歓会の企画

(5) 第84回 理事会(2022年05月) 2022年05月12日

第1号議案 2022年4月度決算報告

第2号議案 西河技術経営塾(代々木校)10期生募集

(6) 第85回 理事会(2022年06月) 2022年06月08日

第1号議案 2022年5月度決算報告

第2号議案 今後計画したい項目の報告

(7) 第86回 理事会(2022年07月) 2022年07月20日

第1号議案 2022年6月度決算報告

第2号議案 西河技術経営塾(代々木校)9期生修了式

第3号議案 ダイヤロン株式会社への役員就任

(8) 第87回 理事会(2022年09月) 2022年09月14日

第1号議案 2022年7月度および8月度決算報告

第2号議案 西河技術経営塾OBの成果報告と表彰

第3号議案 インターネットの活用

7. 5 事務局体制

事務局体制について報告する。

(1) 事務局体制

8月1日から月、金に、松井美樹(3期生)が事務局員として就任する。2月まで、やる気スイッチグループ商品開発部長、財団事業再構築のサポートに取り組んでいた。

また北陸先端科学技術大学院大学サービス経営コース(MOS1期生)を修了しており、塾講師として何講座かを担当する。

浜辺修、松井美樹の2名体制となる。来年度から浜辺修は、在宅勤務を主とする。

(2) 定例事務局会議

小平専務理事、浜辺、松井で事務局会議を毎月 第 1 週の水曜日 15:00 から財団で定例的に開催する。9 月（第 1 回）は、9 月 7 日 15:00～16:00 に実施した。

8. 外部団体との連携

8. 1 西河技術経営学沼田塾（代表小坂哲平）

「西河技術経営学沼田塾」は、沼田校の OB 会組織である。沼田校の司会の小坂哲平が代表を務める。

(1) 財団主催の西河技術経営塾（沼田校 3 期）の運営あたり、運営上の支援を受けた。沼田校の開塾式や修了式に沼田塾会員が参加した。また、会員有志から塾へ飲料水などの差し入れがあった。

(2) 西河技術経営塾（沼田校）OB との交流会を 5 月 20 日（金）の夜 18 時 30 分から沼田市役所内会議室にて開催した。会合には、小平専務理事と山中理事が参加した。修了生の学びの成果と現状との課題を聞いて意見交流をした。1 期生、2 期生が対象で、参加者は、ほぼ全員の 10 名（2 名が所用で欠席）が参加した。

8. 2 その他の団体

下記の団体との連携に取り組む

(1) 敬愛大学（三幣利夫理事長）で寄付講座第 5 期（百万円寄付）に取り組む。

(2) 一般社団法人日本開発工学会（佐藤一弘会長）法人会員。研究会活動に協賛企業となり協賛金を寄付、事務所の提供、活動支援など。

(3) 芝浦工業大学 MOT 同窓会支部（西河洋一支部長） 活動支援など。

(4) 一般社団法人アフリカ協会（松浦晃一郎会長） 法人会員。当財団の浅野昌宏が副理事長（理事長代行）に就任している。アフリカ支援などに取り組む。

以上